

平成30年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成30年12月27日

愛 知 県

1 病害虫名：ブドウリーフロール病

(病原ウイルス：病原としては未確認だが、*Grapevine leafroll-associated virus* (GLRaV) が関係するとされている)

2 発生作物：ブドウ

3 発生地域：尾張地域

4 発生確認の経過

平成30年7月、尾張地域のブドウほ場の1樹(品種：赤嶺)で、葉縁が紅葉化する症状が見られた。9月には、葉縁が葉裏側に巻く(葉巻)症状も認められた。(紅葉症状：図1、葉巻症状：図2)

7月に紅葉症状を呈している葉を採取し、愛知県農業総合試験場において、RT-PCR法によるウイルス検定を行ったところ、*Grapevine leafroll-associated virus 3* (GLRaV-3)で陽性反応を示した。

さらに、9月下旬に採取した葉を農林水産省横浜植物防疫所に送付し同定を依頼したところ、ELISA法により、GLRaV-3が検出されたため、本県未発生のブドウリーフロール病であることがわかった。

5 病徴

- (1) 葉縁が葉裏側に巻く症状を示す。また、果実が赤や紫に着色する品種では、葉が赤く変色し、果実が緑の品種の場合は黄化気味になる。ただし、主要品種の巨峰での病徴は不明瞭である。
- (2) 海外の報告では、本病の感染で、糖度の低下、酸の上昇、1果粒重の低下などの影響があり、これは無病徴感染であっても生じるとされる。
- (3) 被害の程度は品種により異なり、一般に米国系よりも欧州系で著しい傾向がある。

6 ウイルスの特徴

- (1) GLRaV-3は接ぎ木伝染する他、国内での試験で、コナカイガラムシ類により伝搬されることが確認されている。ブドウへの汁液伝染が認められていないことから、管理作業による伝染の可能性は低い。
- (2) ブドウリーフロール病は、GLRaVが関係していると考えられているものの、汁液接種によるブドウへの戻し接種が成功していないため、日本植物病名目録においては、病原未確認となっている。
- (3) GLRaVは現在、GLRaV-1~4、7、13が知られており、今回本県で発生が確認

された GLRaV-3 は日本既発生である。

7 防除対策

- (1) ウイルス病であることから、効果を有する農薬はない。
- (2) 本ウイルスを媒介することが確認されているカイガラムシ類の防除を徹底する。
- (3) 更新時には、健全苗木を導入する。

8 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室

電話：0561-62-0085（内線 471）



図1 葉の紅葉症状

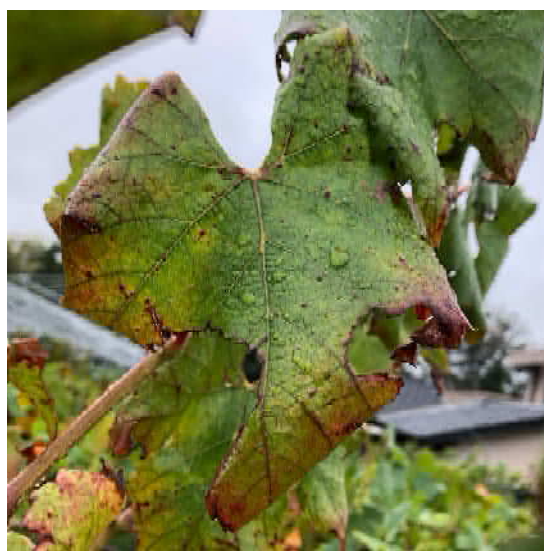


図2 葉裏側への葉巻症状